

1-4. 入出力コネクタ・ピン接続

本機の信号入出力には50ピンのアンフェノール型コネクタが使用されています。

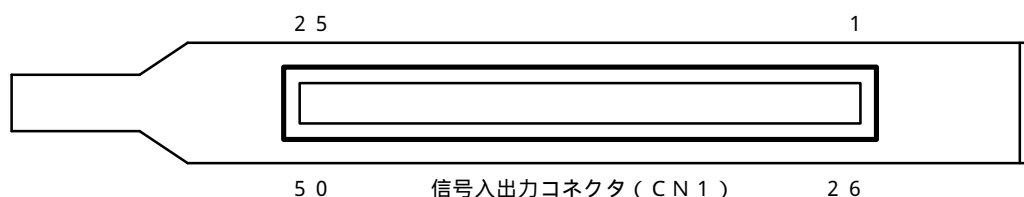
ボード側コネクタ：57AE-40500-21A

適合プラグ：57-30500（ハンダ付け用／標準添付）

図1-4A．信号入出力コネクタ（CN1）ピン接続

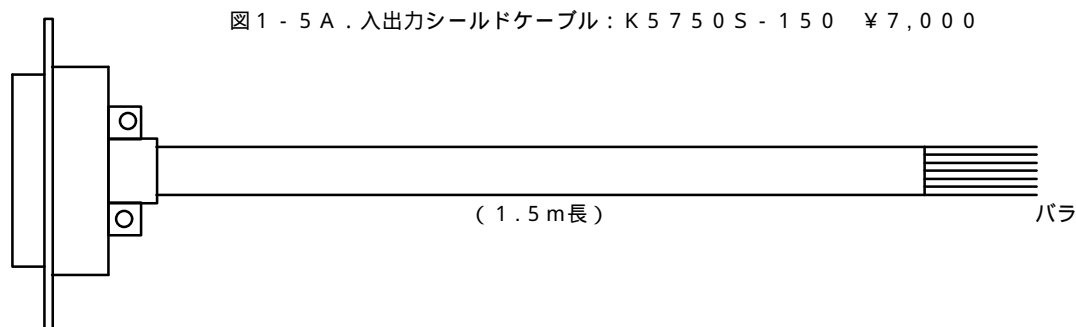
信号内容	信号名	ピン番号	ピン番号	信号名	信号内容
データ出力 0	D 0	1	26	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 1	D 1	2	27	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 2	D 2	3	28	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 3	D 3	4	29	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 4	D 4	5	30	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 5	D 5	6	31	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 6	D 6	7	32	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 7	D 7	8	33	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 8	D 8	9	34	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 9	D 9	10	35	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 10	D 10	11	36	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 11	D 11	12	37	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 12	D 12	13	38	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 13	D 13	14	39	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 14	D 14	15	40	D G	デジタルコモン（グラント）
データ出力 15	D 15	16	41	D G	デジタルコモン（グラント）
汎用入力 0	I 0	17	42	D G	デジタルコモン（グラント）
汎用入力 1	I 1	18	43	D G	デジタルコモン（グラント）
汎用出力 0	Q 0	19	44	D G	デジタルコモン（グラント）
汎用出力 1	Q 1	20	45	D G	デジタルコモン（グラント）
割り込み入力	INT-IN	21	46	D G	デジタルコモン（グラント）
トリガ入力	TRG-IN	22	47	D G	デジタルコモン（グラント）
クロック入力	CLK-IN	23	48	D G	デジタルコモン（グラント）
クロック出力	CLK-OUT	24	49	D G	デジタルコモン（グラント）
+5V出力	+5V	25	50	D G	デジタルコモン（グラント）

図1-4B．リアパネル面の外観



1-5. 入出力接続オプション

標準添付の信号入出力プラグ（50ピン／アンフェノール）は作業性が良いフルピッチ寸法のハンダ付け用ですから、お手元で簡単に接続できます。なおオプションで1,5m長のシールドケーブルも用意されています。



CA50-SST： 両端に50ピン・アンフェノール・コネクタを接続した1m長のケーブルと小基板上に実装された50ピン端子台のセットです。
 ￥26,000

図1-5B. 端子台ケーブル・キット

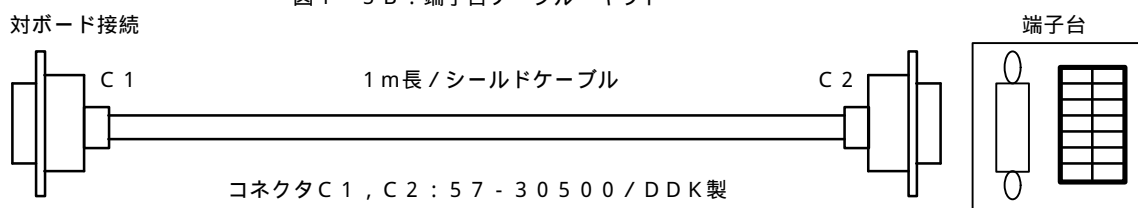
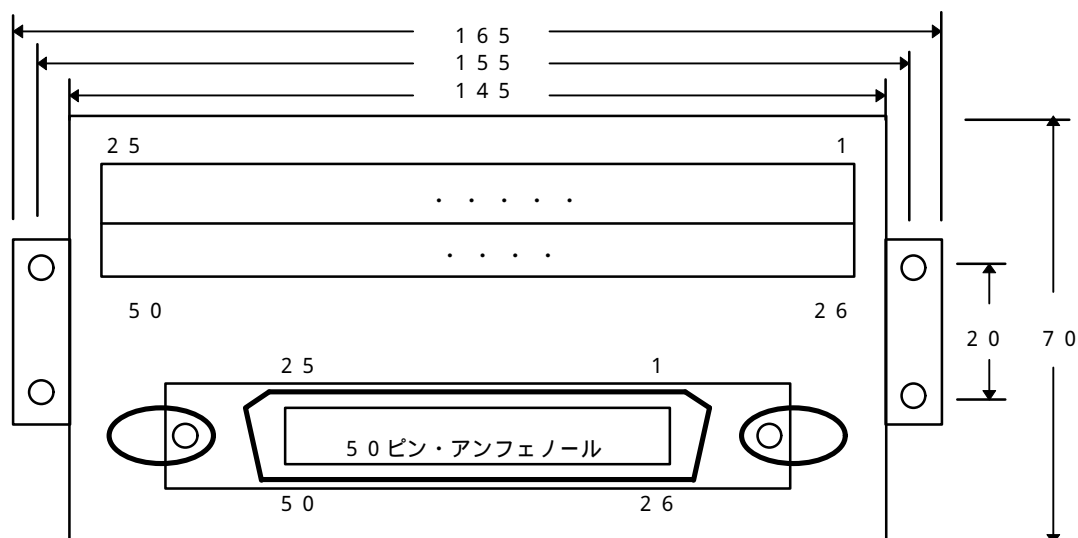


図1-5C. CA50-SSTセットの端子台



型式名：RS-AM 50B【ワイドミュラ - 製】

端子台：ネジ止め式

基板寸法：145W × 70D × 56H

DINレール装着用プラスチック製テーブル付／ネジ止め固定用L金具付（上図の左右に記す）

1-6. 論よりRUN (動作確認・試運転)

以下の手順で試運転してください。動作に不具合があるときは1 - 2項, 1 - 3項に記されたボード上の設定を確認してください。それでも不明なときは、本書巻末に添付の【Q & Aフォーム】にシステム情報を御記入のうえ当社技術部までFAXしてください。

迅速に応答する体制となっています。なおTELいただく場合も客観情報の整理・評価は問題解決のスピードアップにつながりますから事前にFAXしてください。

= = 準備 = =

本ボード上の諸設定は出荷時の状態(1 - 2項, 1 - 3項)とします。

パソコン本体または拡張I/Oボックスの電源を切った状態でカバーを外し、任意の拡張(ISAバス用)I/Oスロットに本ボードを無理なく押し入れ装着します。
このとき注意することは、

パソコン本体または拡張I/Oボックスの電源を必ず切っておく。電源を入れたままで本ボードを抜き差しすることは双方の故障原因となります。

本ボードのカードエッジ(金メッキ端子)に手を触れないこと。手を触れると、(油脂成分の付着等により)接触不良の原因となることがあります。もし、触れてしまった場合はアルコール等で拭き清めてください。

イクステンダ等により本ボードをI/Oスロットから引き出した状態では誤動作を起こすこともありますから、必要以外は使用しないでください。

同時に使用する他のI/Oボードがあり、これに設定されているI/Oアドレスが本ボードの(出荷時)設定と重なる場合は、本ボードのI/Oベースアドレスをシステムの許す範囲で変更・設定してください。その場合は、試運転プログラムの冒頭で本ボードのI/Oベースアドレスを初期値から変更した値に設定する必要があります。【1 - 3項、参照】

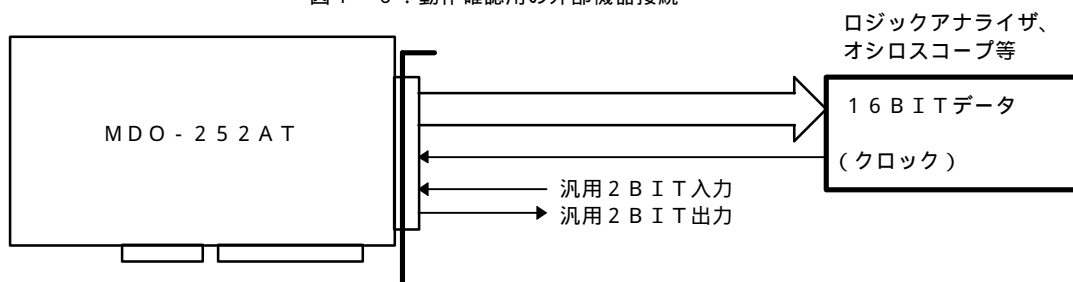
なお試運転プログラムでは、割り込み・DMAを使用していません。

図1 - 6のように、本ボードの16BIT出力をモニタする外部機器に接続します。
ロジックアナライザがあれば理想的ですが、オシロスコープで出力の一部だけを観測しても動作の概要はつかめるでしょう。

外部からTTLレベルのストローブ信号を入力するときは、その信号を本ボードの外部クロック入力(CLK-IN)に接続します。

以上で準備完了です。電源投入順序は全機器同時、または外部機器を先にパソコン本体を最後に行います。電源切断は逆順序です。

図 1 - 6 . 動作確認用の外部機器接続



(ピン番号)

データ出力15～0	: 16～1番	コネクタCN1 (1-4項参照)
外部クロック入力	: 23番	
汎用2BIT入力	: 18, 17番	
汎用2BIT出力	: 20, 19番	
デジタル・コモン	: 50～26番	

== 運 転 ==

試運転・動作確認用プログラム“252QB1”を使用します。

本プログラムはMS-DOS版です。御使用に先立ち、添付のソフトウェアをインストール(4-1項)しておく必要があります。また、当プログラムのソース(Quick-Basic)も同名(拡張子:BAS)で添付されています。

なお“252QB1.EXE”は日本語モードでは正常な表示ができないので、英語モードに切り替えてから“252QB1.EXE”を呼ぶ“252QB1.COM”を使用してください。

テストシステムの電源を投入し、MS-DOSを立ち上げます。

試運転・動作確認用プログラム“252QB1”を読み込み、実行します。

メニューから動作モード、パラメータを指定して実行します。

出力モード選択
(Output Mode)

直接出力(Direct Output)
FIFOバッファ出力(Sampling by Clock)

クロック源選択
(Clock Source)

内部(Internal): 100Hz/10Hz/1Hz
外部(External): 分周比=1(Non-divided)

トリガ選択
(Trigger for Clock Start)

ソフト(Prompt)
外部入力(External): +Edge/-Edge

【Start】で動作開始、【Stop】で中止します。